

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000638		
法人名	有限会社 木犀		
事業所名	グループホーム遊友		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1831-2		
自己評価作成日	平成24年8月5日	評価結果市町村受理日	平成24年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000638&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位の生活、緑に囲まれた環境で、ゆったりとさせていただけるよう心がけています。面会に来られた家族の方も、くつろげるように心がけています。利用者の皆さま一人ひとりと、スタッフが心地よく生活できたと考えています。無農薬で育てた野菜やお米を自給できる限り使用しています。これはまだまだですが、自給率を高めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者が地域の中で安心してその人らしく暮らし続けることができるよう、介護の原点に立った運営を目指している。職員もそれぞれの役割や毎日の業務をこなし、利用者に自然体で接することを心がけている。管理者は、職員の意見や要望に耳を傾け、利用者が地域の中で安心・安全な生活が送れるようにと、常に職員と共に考えている。食に関して、ホームの畑で栽培した、自然で農薬を使用しない野菜や米を利用者に提供したいと取り組んでいる。人材育成にも力を注ぎ、上を目指す職員には、後押しを惜しまない姿勢である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげている。すくなくとも努力している。	「利用者の尊厳、利用者本人の意思決定、寄り添い、安心・安全な生活を送る」という理念を揚げ、実践につなげている。管理者は、利用者と地域とホームを結ぶ理念を模索中である。	理念の見直しという観点から、従来のものより掘り下げた理念を職員全員で作り上げ、実践につなげる努力を期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的というのは、特別でなく、普通にという意味ならばできている。地域のお年寄りには、ここを情報の拠点と考えていると言われる方もいる。また、そうなってほしいとも。	地域の子供たちと一緒に、敬老会を楽しんだり、ホームの餅つき会には地域の住民の参加もあり、地域住民は、ホームを情報発信の拠点としてとらえている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会やもちつき会などで、地域の人々に呼び掛けている。毎年、参加者で常連の方もいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。協議会に出席していただくのが、とても励みになっている。	自治会役員、民生委員、役場の職員のほか、地域の有識者の参加もあり、多方面からの意見や要望が出されている。ホームからの発信がほしいという意見もあり、それぞれの意見をサービスに生かそうとする意欲が見える。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	馴染みの関係でもあり、町は協力的である。	運営推進会議には、町役場の担当者自ら参加をいただき、ホームとの情報交換の場となっている。気軽に相談できる関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。施錠をしないように努力をしている。門の施錠が問題ではあるが、私どもは警察の勧めもあって、している。	職員は、身体拘束の弊害については十分理解し、努力している。現在は、家族の要望や警察からの要請に従い、門の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員教育を考えている。これまでは、虐待と思われる出来事は無かったと考えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に3回の研修会をグループホーム連絡協議会にて行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明のほか、別途、重要事項の説明を行い、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映している。特別に機会は作っていないが、個別に対応している。	家族来訪の折に、意見や苦情をもらうこともある。職員間で情報交換し、できることは直ちに実行し、家族にも結果の報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ではあるが、職員会で意見を求め、対応している。	月に1回のミーティングのなかで、司会や議題を職員で自ら決め進めている。管理者も同席し、出された意見や提案に対して、全員で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。例えば、昼休み時間を設けた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に3回ある研修会への参加を勧めている。個人の取り組みに任せる面も多々ある。月1回の研修の充実を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を作り、参加している。交流がだんだんと深まっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心感を持っていただくために、最大の努力を惜しまないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築く努力はしている。入居前から依頼されることもあり、信頼関係は大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望には応えるようにしている。例えば、マッサージに週1回連れていく(家族が)。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まだまだである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まだまだである。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別なことはしていない。家族の思いなど、大切にしている。馴染みの病院、馴染みの美容室など、馴染みのある人はそのままにしている。	利用者の希望に沿い、自宅に帰ることもある。家族と共に、いつも利用していた店に買い物に行ったり、墓参りに行くなど、なじみの関係が途切れないよう、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い人同士、組み合わせが自然と作られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。例えば、昼休み時間を設けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけして、出来る限り本人の決定を尊重している。	見守ることにより、本人の行動や話の中から、思いや意向をくみ取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで把握するほかに、普段の会話で聞き取る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、気付いたことを報告するようになっている。観察はやっている。提案で出している。はくパンツの使用から、普通のパンツの使用に戻すなど。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はモニタリングをしている。いろんな意見を出してもらっている。一人ずつモニタリングを出してもらっている。	毎月モニタリングを行い、利用者や家族の意見や希望を取り入れ、職員の気づきを反映した介護計画を作成している。	利用者の小さな変化も見逃すことなく、3か月ごとの見直しを行うことと、毎月行うモニタリングの記録を残し、それを反映した介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。少なくとも、ケアプラン実行状態の把握において、書き込みをしてもらうことにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしては珍しいようだ。通所を3名受け入れている。また、入所者の家族で、毎日来たい家族は来ていただいても構わない。一緒に介護するという形もいいのではないか。みんなで見ていく関係を作りたい。これをサービスと言えるか？		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は、理容師に廉価で、2カ月に1度、来ていただいている。マッサージに行く人もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	従来のかかりつけ医の受診をしている。家族同行の受診になっているが、やむを得ない場合は、職員が同行している。受診後の結果は共有し、かかりつけ医との連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、正職で看護師がいない。したがって、答えにくい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、話はしている。自らの力で食べ物を咀嚼、あるいは飲み込みができなくなった時は、病院に移っていただく。そこに至るまでの間、最大の努力はします。	重度化した場合や看取りのあり方については、現状では十分な体制が整っていないので、力量に応じて、できる範囲で対応する方針となっている。家族には説明し、承諾を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にしたいと思っている。救急車が来るまでの対応の訓練をしたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練をしています。	消防署や地域住民の協力を得て、年に2回の防災訓練を行っている。町の担当職員の参加もあり、協力体制を築いている。災害に備えての備蓄もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけて介護しています。	居室に入る時は、必ず声をかけ、承諾を得る事や利用者の誇りを傷つけるような言葉かけには、十分な配慮をもって接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にできるだけ沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝るときはパジャマで、起きたらカジュアルな服装で生活している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が決まっているので、献立が決まってくる。嫌いとか分かっていときは、その人だけ違うものを出す時がある。	利用者の持っている能力を生かしながら、下ごしらえや食器洗いなどを職員と一緒にしている。食の進まない人には、同じ目線で優しく声をかけ、楽しく食事ができるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。水分量、食事量が1日の中で、一目で分かる記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、自分でできる人は自分で、自分でできない人は介助でしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	昼間のおむつの使用をできるだけ避け、利用者の排せつパターンを把握し、声をかけ、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車いすの人も増えてきているが、動ける人は特に散歩・体操などをしていただいている。水分補給も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は楽しんでいただいている。しかし、こちらのスケジュールでさせていただいている。	入浴は午後から行い、2日に1回の基本の入浴日にとられず、利用者の希望に合わせ、毎日でも入れるように用意がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを壊さないよう、休憩を入れたり、自室で休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	概ね知っている。副作用も気になるところであるから、皆、気を使っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力に応じて、手伝いなどしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方の協力で、戸外に出られる方がいる。戸外は、現在、庭で過ごしていただいている。また、散歩も始めたいと思っている。	時には、ドライブに出かけることがある。現在、職員の勤務体制が整っておらず、日常的な外出支援は十分に行われていない。	家族や地域住民、ボランティアなどの協力を得るなどの対策を話し合い、日常的に外出支援が行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、誰も所持したいという人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。 手紙も数人出している。 電話は、一人だけ所望される。その時だけ応えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでのところ、問題なく来ている。	吹き抜けになった天井からは、柔らかな光が入り、リビングに続くベランダには、いつでも出られるようになっている。裏庭には季節の野菜や果物が実り、食事の準備の匂いは利用者の五感を刺激し、居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い場所にテーブルが4つあり、気の合う者同士で座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人と家族に任せている。工夫されている部屋もあるし、それほどでもない部屋もある。	四季を通して、必要な物を持ち込んだ居室があり、家族の写真や記念になる物があるなど、日常生活の場として、その人らしい部屋になるよう配慮してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂は分かるようにしている。		